

植物の最小病原体がテーマ

弘大出版会賞に
佐野名誉教授著書

弘
前

植物の病気を引き起こすウイルスよりも小さい病原体「ウィロイド」研究の第一人者として知られる弘前大学の佐野輝男名誉教授（ウィロイド学）の著書「最小の病原体―ウィロイド」（弘前大学出版会）が第16回弘前大学出版会賞を受賞した。6月30日、弘大で表彰式が開かれた。

ウィロイドは1971年に米国で発見。国内では77年、ビールの苦みと香りのもととなるホップの収穫量や品質が

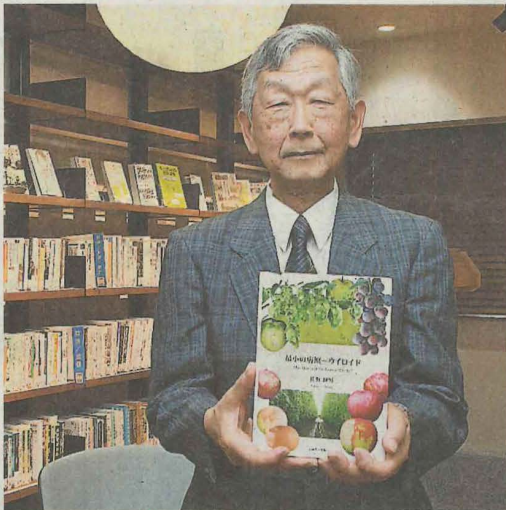
「ウィロイド」研究の集大成

落ちる「ホップ矮化病」の原因がウィロイドであることが北海道大学の研究で明らかになった。当時、北大生だった佐野名誉教授は新しい病原のウィロイドに関心を持ち、研究の道に進んだ。

同書はウィロイド研究の集大成といえる書物で、昨年12月に出版。専門家はもちろん、学生や市民に広く読んでもらおうと分かりやすさを心がけたが、ウィロイドに関する国内初の専門書となるだけに正確さとのバランスに苦労したという。

最新の研究動向もカバーしている。ウィロイドはこれまで植物にのみ感染が確認されていたが、ここ2〜3年で状況は大きく変わった。「ウィロイドに類似した病原が、菌類や細菌類といった植物以外の生物でも見られることが示唆されている。ウィロイド研究はこれからの方が面白くなる」と語った。

新潟県見附市出身。90年から2年間、ウィロイド研究の中心地とされる米国農務省ベールツビル農業研究所へ留学後、92年に弘大助教授。長年のウィロイド研究が評価され、2020年度の日本学士院賞を受賞している。（工藤貴光）



弘前大学出版会賞を受賞した著書「最小の病原―ウィロイド」を手にする佐野名誉教授

この画像は、当該ページに限って”東奥日報社”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。